



わたしの一冊・わたしの一本

日本美術の見方（岩波 日本美術の流れ 7）

辻 惟雄 著 岩波書店 / 1992.2 発行

推薦者	多摩美術大学 非常勤講師 山本 ゆかり 先生		
おすすめ	<input checked="" type="checkbox"/> おためし	<input type="checkbox"/> お気に入り	対象：高校生以上
山本先生が担当した さがまちカレッジ	春画を旅する～恋をめぐる江戸文化～（2017年2月）		

最近では春画のことを掘り下げる機会が多く、ともすれば狭い分野にばかり視野が向きがちになります。そのようなときにこの書籍を読むと、美術史の視界が大きく開かれるのを実感します。

日本美術史の泰斗・辻惟雄先生（1932～）が広い視野から日本の美術の歴史を見渡し、その特質を説いた書籍です。「かざり」と「あそび」の要素に大きな特質を見出され、具体的な作品を例に、脈々と流れる日本美術の特質とその魅力に気付かせてくださいます。

装飾的なものと簡素なもの、抽象的なものと写実的なもの、真面目なものと不真面目なもの…など、日本の美術にはさまざまな性質があります。どのような性質の美術に触れても、より深く味わうことができるような鑑賞の座標軸、着眼点が示されています。

※30年近く前に発行された書籍のため新品を手に入れることは難しいですが、相模原市、町田市の図書館にも所蔵されているようです。

おすすめ：先生が担当した講座に関する勉強ができる作品

おためし：新しいことを勉強する良いきっかけになる作品

お気に入り：先生の好きなことに関する作品や、先生の心に残る作品